

<GAP（農業生産工程管理）について>

【調査の目的】

GAP（農業生産工程管理）とは、安全・安心な農産物を生産するために生産者自らが出荷物への異物の混入防止、農薬や肥料の適正な使用、農作業事故の防止など、それぞれの生産工程ごとにチェックリストを用いて点検、評価を行う取組のことです。また、これらの取組を第三者が認証したものとして、GAP認証（※）があります。

農産物の取引の際に、小売店や量販店の一部では、GAP認証の取得を要件の一つとして求めているところもあり、このような取組が進展することが予想されています。

県では、生産者のGAP認証取得のために支援を行っておりますが、GAPについては消費者や販売関係者の認知度が低いため、GAPの認知度向上のためのPR方法等が課題となっています。

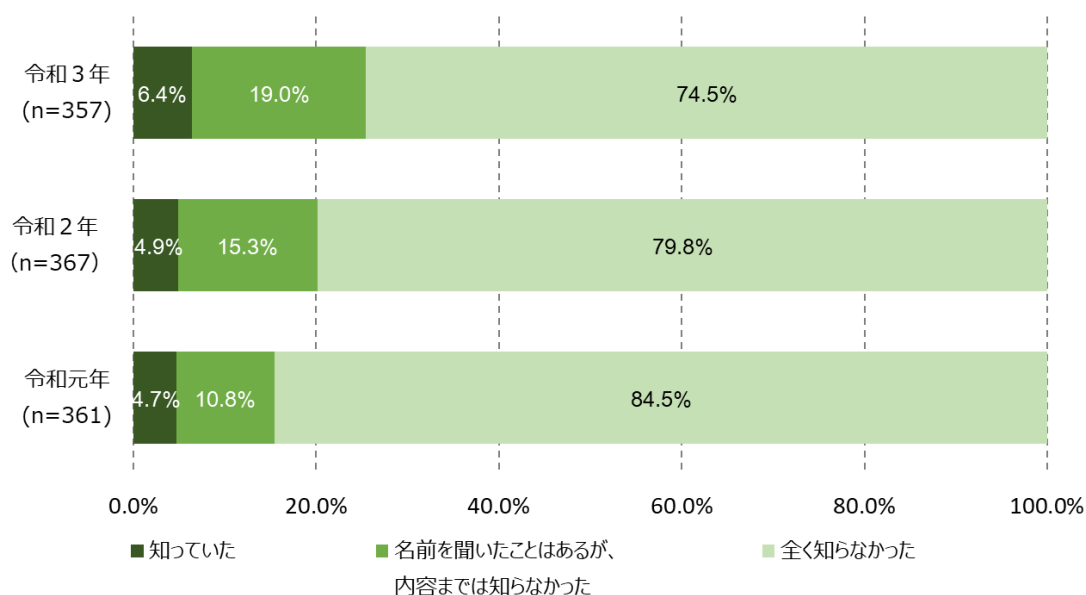
このため、皆さんのご意見をお聴かせいただき、今後のGAPの取組推進の参考とさせていただきたいと思っております。

(農林水産部食の安全・地産地消課)

※ GAP認証とは

民間団体による認証には、代表的なものにグローバルGAPやアジアGAP、JGAPなどがあります。平成30年2月より、県が認証する「福岡県GAP認証制度」が始まっており、生産者による福岡県GAP認証の取得が進んでおります。

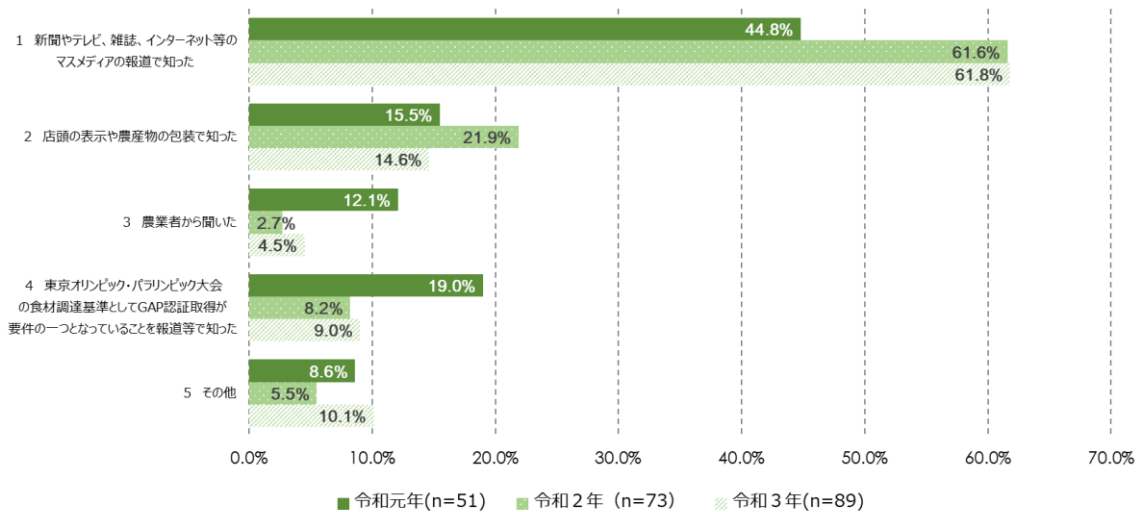
問1 あなたは、GAP（農業生産工程管理）について知っていましたか（選択は1つのみ）。



・「知っていた」または、「名前は聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」と回答した割合は令和2年度よりも5%増加し、年ごとに割合は増加傾向にある。

問2 (問1で「1」又は「2」を選択された方にお尋ねします。)

どのようにして「GAP (農業生産工程管理)」をお知りになりましたか。
次の中から【1つだけ】選んでください。



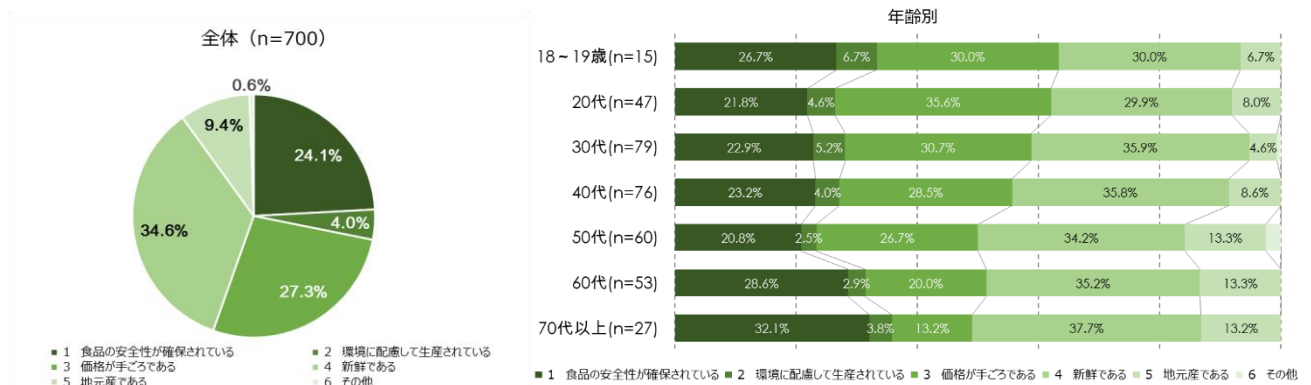
- ・「新聞やテレビ、雑誌、インターネット等のマスメディアの報道で知った」が令和2年度と同等割合(61.8%)であった。
- ・「店頭が表示や農産物の包装で知った」割合は過去2年間と比較して減少傾向である。

問2-2 問2で「5」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

- ・日本農業検定を受験したから(40~49歳、福岡地区、男性)
- ・中学生の授業で聞いたことがある(20~29歳、筑豊地区、女性)
- ・高校生の時、地理の授業で習った。(20~29歳、福岡地区、女性)
- ・生協活動をとおして、講習をうけたことがある(60~69歳、福岡地区、女性)
- ・大学の授業で耳にした。(18~19歳、福岡地区、女性)

問3 あなたは、農産物を購入する時、何を重視しますか。

次の中から【2つまで】選んでください。



- ・農産物の購入する時に重視する項目は、「新鮮である」、「価格が手ごろである」、「食品の安全性が確保されていること」の順に割合が高い。いずれの世代においても「環境に配慮して生産されている」は、農産物の購入する時に重視されていない傾向である。
- ・世代別に比較すると18から20代は、「価格が手ごろである」、30代から70代は、「新鮮である」を重視する傾向である。

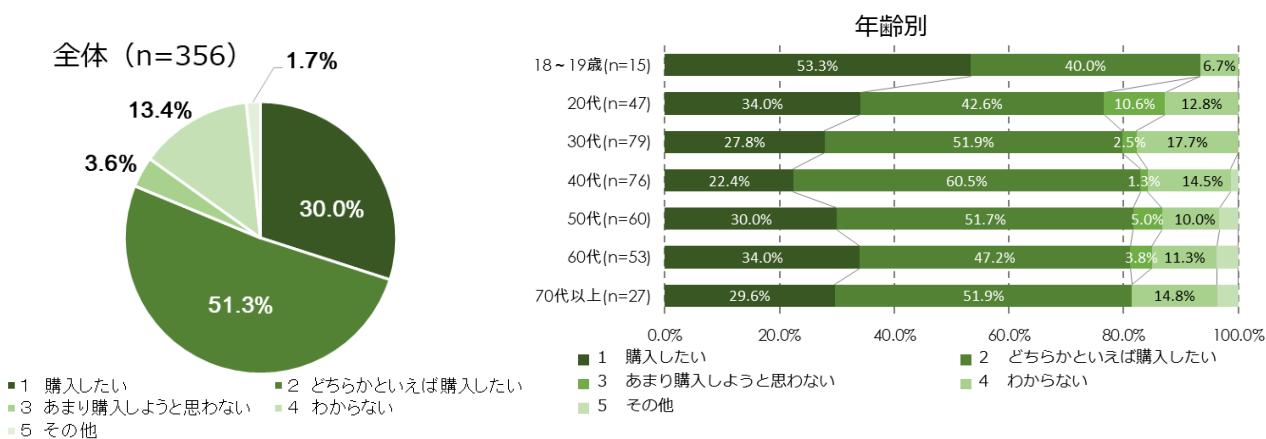
問3-2 問3で「6」で選んだ場合、その内容を具体的に入力してください。

(主な意見)

- ・有機栽培や低農薬の物を購入するようにしている。一般的な日本の農産物は土壌から使用する農薬までもはや安全では無くなっている。(50～59歳、北九州地区、男性)
- ・なるべく県内、あるいは近隣県のものを買うようにしている。(50～59歳、北九州地区、女性)
- ・農薬、添加物を使用していないもの、もしくは、できる限り少ないもの。(できるだけ自然のもの)(50～59歳、福岡地区、男性)
- ・被災地域の産地の物を買いたいので 被災地産のものを探す(30～39歳、北九州地区、男性)

問4 あなたは、GAP認証を取得した農産物を購入したいと思いますか。

次の中から【1つだけ】選んでください。



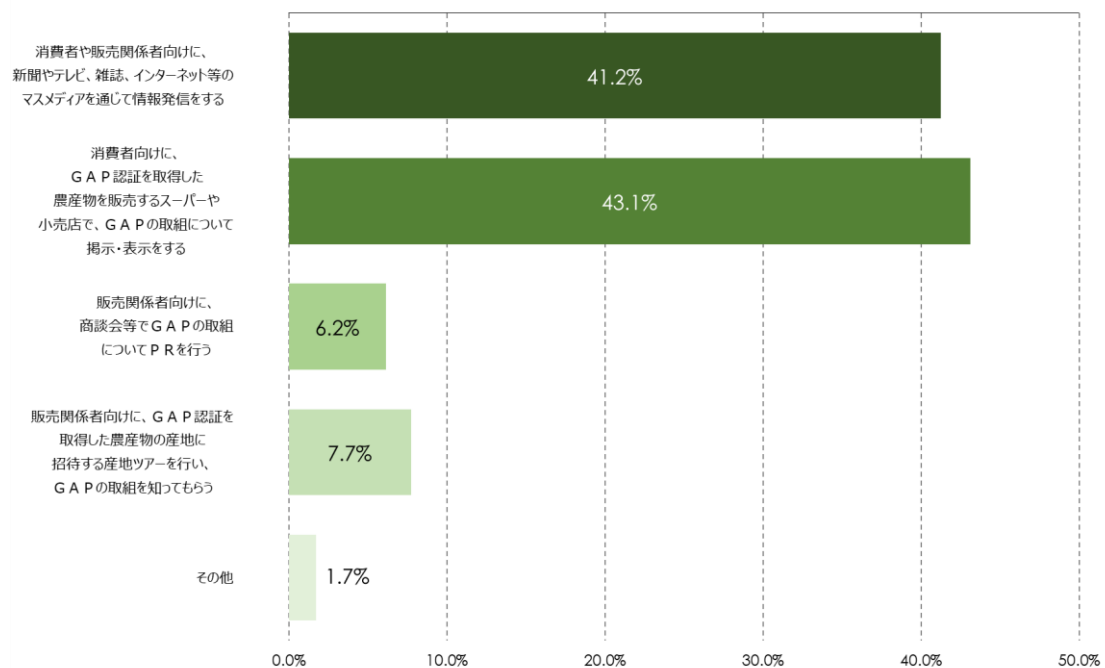
・「購入したい」、「どちらかといえば購入したい」と回答した割合は、世代を問わず、70%以上である。

問4-2 問4で「5」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

(主な意見)

- ・基本的に店頭に並ぶ食品の安全性に疑問を持っていないので、GAP認証の有無は気にならない。(70歳以上、北九州地区、男性)
- ・携帯QRコードを一品かざすと、生産ルート過程が一目でわかるようにして欲しい。(40～49歳、福岡地区、男性)
- ・GAP認証と言うが、その基準となる国が認定する農薬の種類や濃度などが安全ではないため、安心とは思えない。(50～59歳、北九州地区、男性)
- ・安全な食品という意味ではGAP認証のものを買うことはいいことであるが、認証を受けることにより農産物の値段が高くなるのではないかと危惧する。(50～59歳、福岡地区、男性)

問5 あなたは、GAPの認知度向上のために、県からどのような支援が有効だと思いますか。次の中から当てはまるものを【2つまで】選んでください。



- ・「消費者や販売関係者向けに新聞やテレビ、雑誌、インターネット等のマスメディアを通じて情報発信をする」、「消費者向けに、GAP認証を取得した農産物を販売するスーパーや小売店で、GAPの取組について掲示・表示をする」の割合が高いことから、GAPの認知度を向上させるため、消費者、販売者向けのPRを強化、充実を図る必要がある。

問5-2 問5で「5」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

(主な意見)

- ・生産者側にもGAPの認定によって、生産物に安全という付加価値をつけることが出来ることを伝える活動をする。(18～19歳、筑豊地区、女性)
- ・消費者向けに、GAP認証を取得した農作物の産地を含む近隣のツアーやハイキング、マラソン大会などのイベントを行い、農作物の販売会も合わせて実施するのは、いかがでしょうか？(30～39歳、北九州地区、女性)
- ・消費者にどのようなメリットがあるのかももう少しわかりやすく説明してほしい。(40～49歳、福岡地区、男性)

問6 GAP(農業生産工程管理)について、これまでの設問以外にご意見がある場合は、その内容を具体的に入力してください。

(主な意見)

- ・例えば有機JASマークと具体的にどう違うのか、など他の活動との違いが知りたいです。(30～39歳、筑後地区、女性)
- ・県が異物混入防止や適性肥料使用を確認し、農製品の出荷・流通を行うまでのサポート・支援を行ってほしい。(30～39歳、筑後地区、女性)
- ・きちんと何の農薬を使用したかがわかる生産者ごとのQRコードがあるとよい。また農薬の使用頻度や種類もわかるとよい。(40～49歳、筑後地区、女性)

- ・認証を受けるのに農業など高齢者が多く、誰でも出来る仕組みをつくる必要があると思います（50～59歳、筑後地区、男性）
- ・GAP 認証農産物を購入し消費するきっかけとなる取り組みが有効ではないかと考えられる。実際に使ってみていい農産物であることが分かれば、自然な消費拡大が期待できるのではないか。（50～59歳、北九州地区、男性）
- ・生産者や業者への理解と協力を求めることに、重点をおいたらどうかと思う。（50～59歳、筑後地区、女性）
- ・GAP 知らない人がほとんどだと思う。道の駅やスーパー等で解説ポスターを貼り、GAP シールを取得した商品にはる（60～69歳、筑後地区、男性）
- ・GAP についてもっと詳しく知りたいと思いました。知る方法を教えてほしいと思います。（60～69歳、福岡地区、女性）
- ・県内農家でGAP 認証を取得した農家がどれだけあるのか知りたい。（60～69歳、福岡地区、男性）
- ・農業の生産過程を評価できる GAP 認証の設定は消費者が農産物を買う上で商品選択として取り入れやすい基準である。例えば、テレビ、ラジオ等の日常生活の中で身近に触れることがあれば、認知度が高まり、取り組む農家も増えそうである。（60～69歳、福岡地区、女性）
- ・いくら管理をきちんとしても価格が高すぎでは消費者には手が届かない（60～69歳、福岡地区、男性）
 - ・農業者から、GAP 認証のハードルが高く、得てもメリットが少ないと聞いたことがある。特別なことを認証するより広く安全な食品を提供する体制の方が重要だと思う。（70歳以上、北九州地区、男性）
 - ・消費者などに情報発信することももちろん大いに必要ですが、この制度の認定の仕方も重要で、透明性を持った機関、現在どのように認定がなされているかにも関心があります。（70歳以上、福岡地区、女性）
 - ・まだ身近に触れる機会が少ないので、スーパーなどで支援をしてこれらの農産物が増えればよいと思う。（70歳以上、筑後地区、女性）